

諏訪小だより

令和6年10月31日
11月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

校外学習のあり方を改めて考える

校長 齋藤幸之介

過日行いました運動会には、皆様にお越しいただきましたことに深く感謝を申し上げます。総来校者数が883名と、その数字の大きさに驚くと共に、学校行事に深い関心をもってくださることに、感謝と同時に身の引き締まる思いしております。貴重な御意見を頂戴しておりますので、来年度に生かすべく検討をすると同時に、本校の運動会のよさを再度確認してよりよい取組にしたいと思っております。

運動会後の校外学習の実施

さて、11月16日(金)の本校開校30周年記念式典を間近に控えておりますが、10月25日(木)には3年生が市内巡りの一環としてパルテノン多摩で多摩市の変遷を調べ、また中央公園が改装している様子を見学しました。事前学習で明確にした問いを解決しながら、多摩市の過去・現在そして未来を具体的に追究することができました。本日31日(木)には、1・2年生が多摩動物公園に行きました。平素見られない動物を目の前にし、その大きさや鳴き声などに触れ、その特徴を味わいました。

明日は、4年生が台東区浅草方面へ社会科見学に出かけます。浅草は社会科で東京都の特色ある具体的な地域として取り上げられており、多くの学校が見学に訪れます。

子供たちの活動の充実を求めて

少し小難しい話になります。見学の仕方は随分と変わりました。以前は、地域を訪れるだけで満足し、よって見学する場所も全員が一緒に訪れることによって活動の目標が達成される、と考えていました。しかし、今は当然のように多くの情報が得られますから、現地を訪れなくても十分な学びが保障されます。見学のあり方も変化が求められます。

ここでポイントの一つとなるのが、子供たちの求めに応じて、ということです。私は浅草寺を見学したい、いや、私は仲見世通りを歩いてみたい、という、子供たちの関心に基づく活動が求められることとなります。このことは、最後は、例えば浅草という地域の特色を深く理解することにつながり、さらには、「また行ってみたい」や「他の地域も調べてみたい」とすすん

で学んだり関わったりしようとするようになるでしょう。そうなれば、本当に有難いことです。

一方で、学校行事として行う際には、何よりも安全面を保障することが求められます。苦しい事情をお話すれば、該当年度の担任以外に数名の教職員を引率させても、子供たちの関心を満たす活動にするには十分ではありません。

そこで、今回は保護者の方々に社会科見学への参加を御依頼しました。有難いことに26名の方々に御参加いただけるようになりました。この場をお借りし、御理解並びに御協力をいただいたことに、深く感謝を申し上げます。

保護者の方々には、2～3名ずつに分かれていただいて12ある班の一つを担当していただきます。そして、子供たちと共に施設見学をしていただきます。子供たちは社会科の時間にすでに特色ある施設等について調べており、特に見学をしたいところや見学の順序を計画しています。「自分たちが行ってみたいところに行かれる」「計画した通りに見学してみたい」という欲求を満たすこの活動は、今まで以上に充実感を味わえ、さらに学習を深めてくれることにつながります。

世の中の変化にも対応しながら

「2024年問題」がバスを借り上げることに影響を及ぼしていることは言うまでもなく、このままでは子供たちの活動が今までのように行えない状況になります。この課題に対応すべく学校は対応を求められています。その一つが今回の4年生の取組です。

多くの御迷惑をおかけするかもしれません。しかし、このことは、子供たちの安全面と活動の充実とにつながるとともに、保護者の方々には教育活動への理解を深めていただくことにつながると捉えています。もちろん、課題や改善点もお伝えいただけることとなります。

矛盾をしたことを申しませんが、場合によってはバスを借りることもあるかもしれません。その際には「費用対効果」に十分に配慮しながら計画を立てていきます。いずれにしても皆様に御理解をいただけるように取り組んでまいります。

